



ストーカー「心」を治療

■ 加害者治療 4月から始まる試験実施では、関東地方を中心に、1年間で35人程度の加害者に治療を受けてもらう予定だ。警察庁は新年度予算で、関連費用1100万円を計上している。

警察庁4月導入

■ 遺族の訴え 「加害者を治療すること」でしか、被害者は守れない。有識者がストーカー対策を話し合う同庁の検討会で昨年12月、男性(42)が語った。

男性の妹は、神奈川県逗子市で2012年11月、元交際相手に刺殺された三好梨絵さん(当時33歳)。元交際相手は11年6月、三好さんを脅迫した疑いで逮捕され、殺害後に自殺した。しかし、執行猶予付き有罪判決を受けた後、三好さんの転居先を突き止め、被害者を処罰し、被害者が逃げても、凶行を防ぐことができなかつた現実に、男性は「最も欠けている対

ストーカー被害の防止策の一環として警察庁は4月、ストーカー規制法に基づく警告を受けた加害者らに、精神科医の受診を勧める「加害者治療」の制度を試験的に導入する。偏った考え方や恨みを解消することで、加害行為の原因を根本から取り除く狙いで、被害者の遺族から効果を期待する声がある。ただ、治療を強制できないなど課題も多い。

「警告 対象者」

精神科で再発防止

策は加害者の治療だと考

えるようになつたという。

昨年のストーカー被害は2万件を超え、2年連続で過去最多を更新している。

■ 原因を知る

「俺がこんなに気にしてやっているのに」。警察幹部によると、加害者が別れを切り出してきた交際相手

に対して、頻繁に使う言葉

だという。極度に束縛し、見下す自身の態度が原因だと気づかず、「どうなつても知らないで」と逆恨みすることが多い。

今回の制度作りに協力し

た都内の精神科医、福井裕

輝医師(44)は、100人を超える加害者を診察してき

た。福井医師によると、「加

害者治療」では主に、「認

知行動療法」を用いる。数

か月から1年をかけて毎回

1~2時間、加害者と面談。

独善的な思いこみや日常生活の不安などが加害行為を

引き起こす原因になつてい

ることを知つてもらい、行

為をやめるよう促す。

■ 強制に課題

「加害者治療」には課題

ある男も当初、福井医師

に対し「女性を救うため

だった」と自分の行為を正

当化した。ストーカー行為

のきっかけになったのは、

男が被害女性から夫の愚痴

を聞いたことだった。男は

「あなたの夫はピモだ。助け

てやりたい」とメール。女

性にやめるよう言われると

逆上し、女性の職場に卑わ

いな内容のファックス100

通を数か月間送り続けた。

福井医師によると、「加

害者治療」では主に、「認

知行動療法」を用いる。数

か月から1年をかけて毎回

1~2時間、加害者と面談。

独善的な思いこみや日常生活の不安などが加害行為を

引き起こす原因になつてい

ることを知つてもらい、行

るなど、一定の強制力が働く仕組みも検討すべきだ」と提案する。

こうした仕組みの導入に

加害者の同意が必要だ。治

療を勧める際には被害者の

了解も取る方針だ。

ストーカー問題に詳しい

常磐大の諸沢英道教授(被

害者学)は、「有罪判決を

受けた加害者に対し、治療

を受けることを執行猶予の

条件とする」とや、刑務所

P.O.と連携した治療プログラムを実施す

ることを望んで

いる」と話している。

は警察だけでは実施できな

い。多様な組織、機関、N

PO.と連携した治療プログラムを立ち上げることを望んで

んでいる」と話している。